

北九州市DX推進懇話会

所 属	氏 名
(株)YE DIGITAL代表取締役社長	えんどう なおと 遠藤 直人
連合福岡北九州地域協議会 事務局長	えんどう よしゆき 遠藤 禎幸
西日本新聞社 北九州本社代表	かつ き まさこ 甲木 正子
北九州市立大学 経済学部教授	くまもと さとる 隈本 覚
司法書士	しげなが ゆうこ 重永 酉子
西南学院大学 法学部教授	せいいち ともこ 勢一 智子

(50音順 敬称略)

懇話会開催の目的

「北九州市DX推進懇話会」開催要綱 抜粋

(開催)

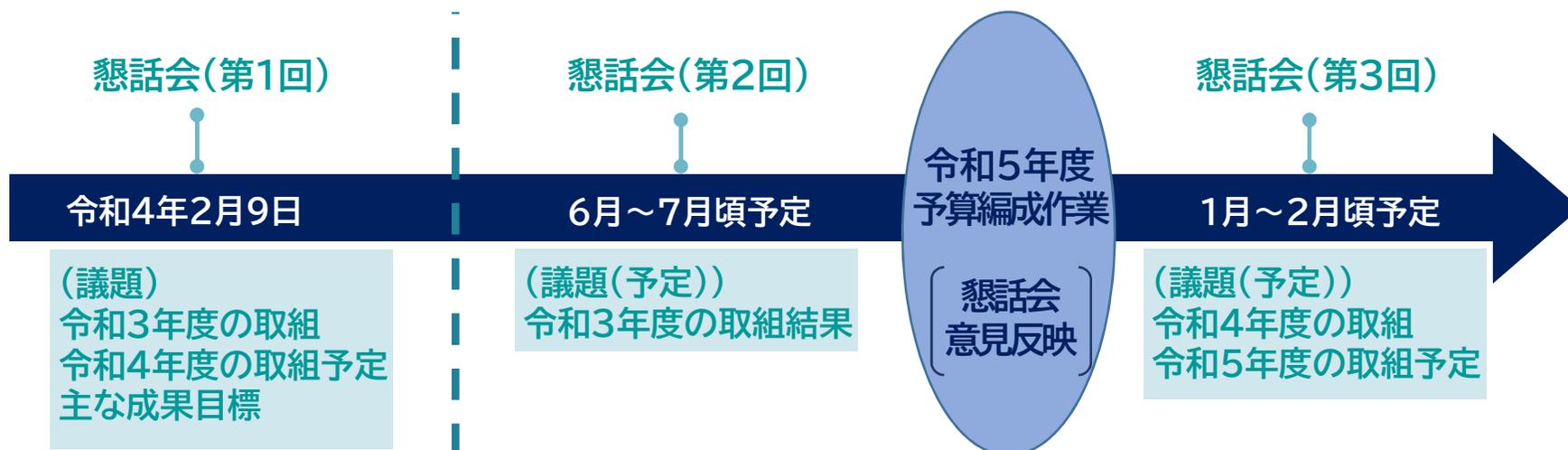
第1条 本市におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)推進に関する事項について検討を行うため、「北九州市DX推進懇話会」(以下「懇話会」という。)を開催する。

(懇話会の役割)

第2条 懇話会は、次に掲げる事項について検討を行う。

- (1) 本市におけるDX推進に係る施策に関すること。
- (2) その他DX推進に関して必要な事項に関すること。

開催スケジュール (予定)



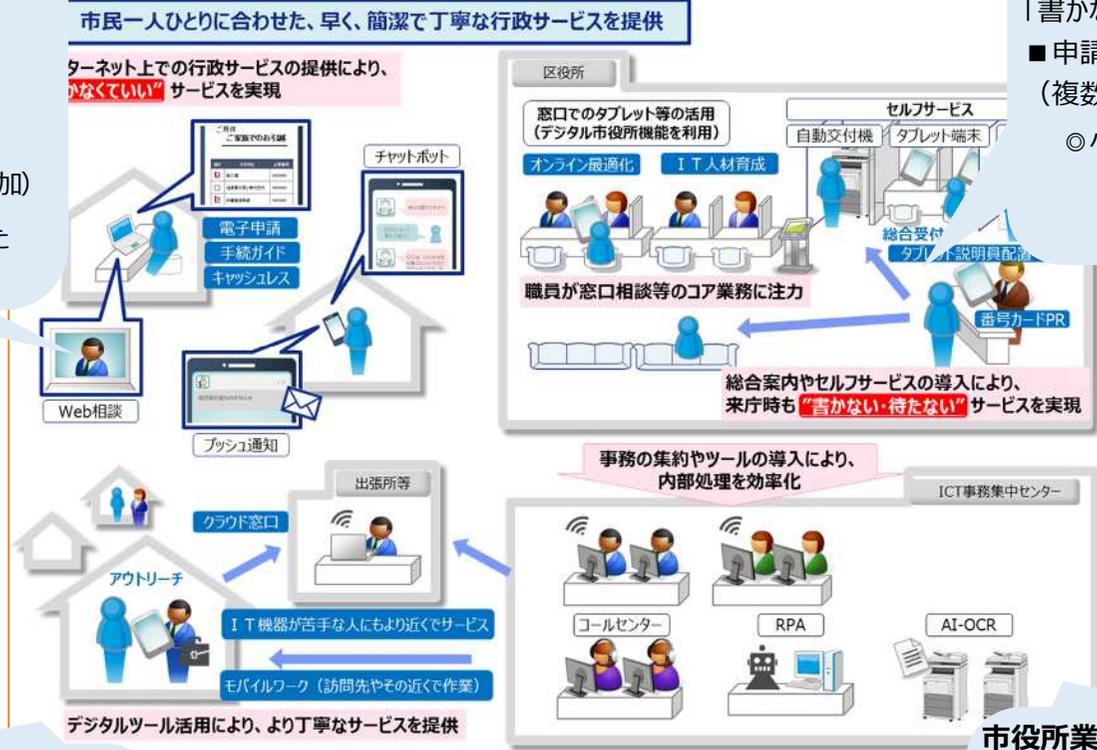
令和3年度 DX推進の取組

「北九州市DX推進計画」の策定【DX推進の指針】

「デジタルで快適・便利な幸せなまちへ」

市民サービス改革

- 「行かなくていい」の実現
- オンライン手続き推進
(1,031手続きオンライン化済)
 - 手続きガイド機能拡充
(転入・転出・結婚など6手続き追加)
 - マイナンバーカードを活用した
図書館アプリ実証



窓口サービス改革

- 「書かない」、「待たない」の実現
- 申請書作成支援サービス
(複数の申請で重複した記入を不要に)
 - ◎ 小倉北区役所
「高齢者・障害者相談コーナー」
「おくやみコーナー」で実施中

市民一人一人に合わせたデジタル化

- 全ての市民にデジタル化の恩恵を
- 窓口のクラウド化実証 (リモート相談)
(出張所等のサービスを充実)
 - 高齢者等を対象とした「デジタル活用講座」
(デジタル活用のきっかけづくり)

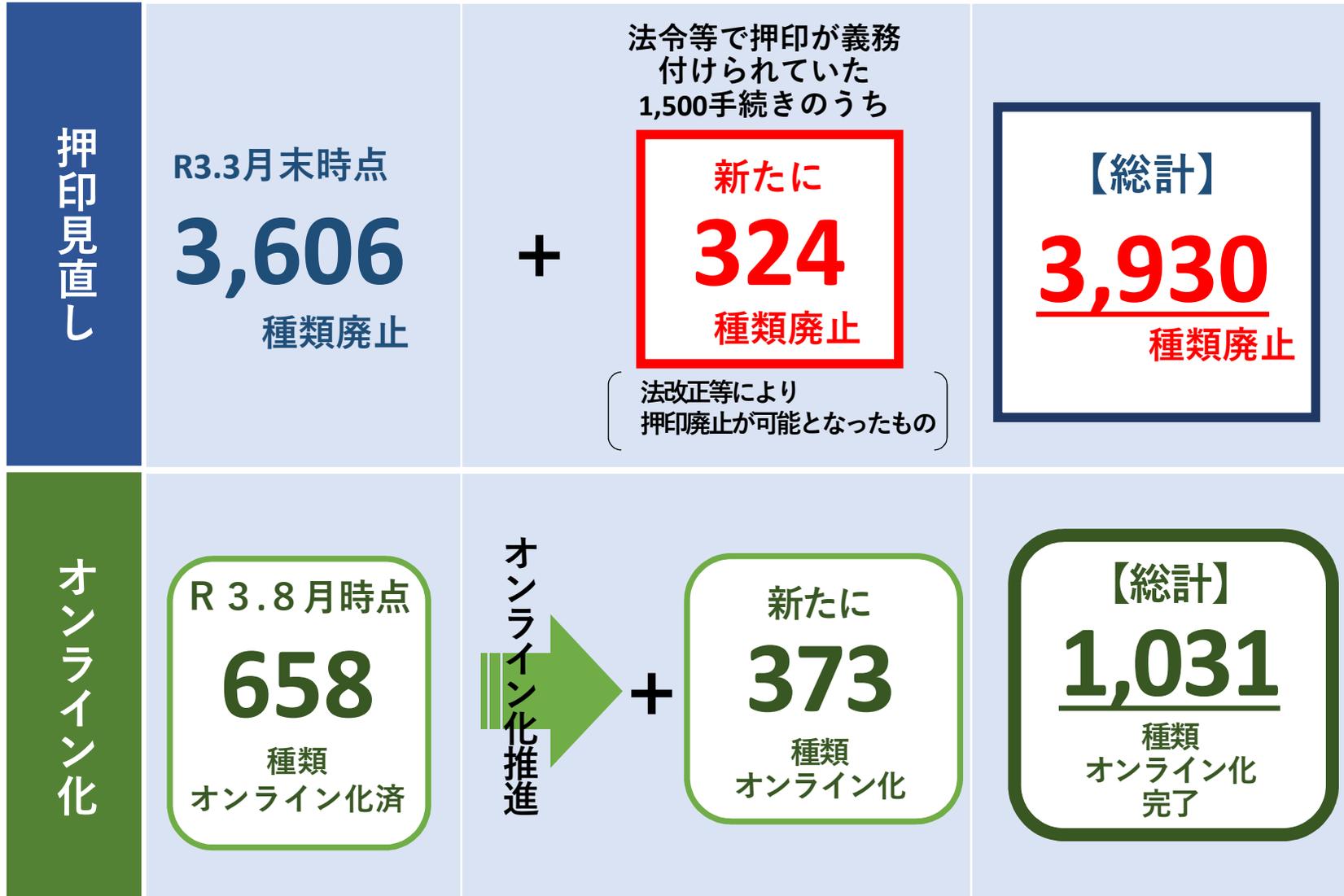
DX推進のための基盤整備

- 全庁業務量調査の実施 (業務改革推進の基礎資料)
- モバイル端末導入・活用推進 (多様な働き方の実現)
- デジタル人材育成 (デジタル化を牽引する職員育成)
- 地域DXにつなげるための連絡体制構築等に着手

市役所業務の効率化・高度化

- 事務処理をデジタルで完結できる体制の整備
- デジラボ本格稼働
(定型業務等をデジタルで集中処理)
 - ローコードツールの活用
(業務システムの内製化推進)
 - A I ・ R P A の活用
(定型・大量の事務処理をデジタル化)

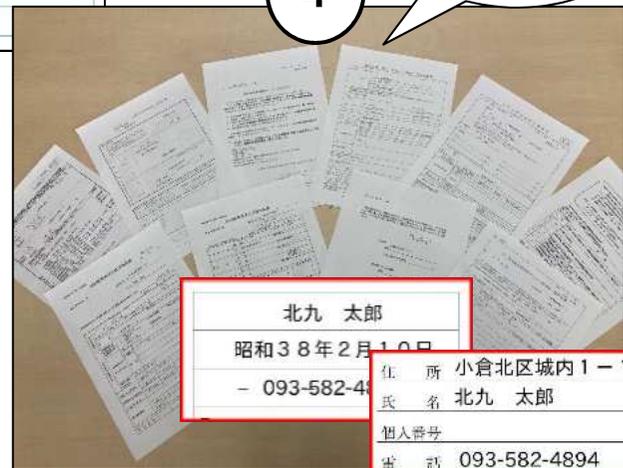
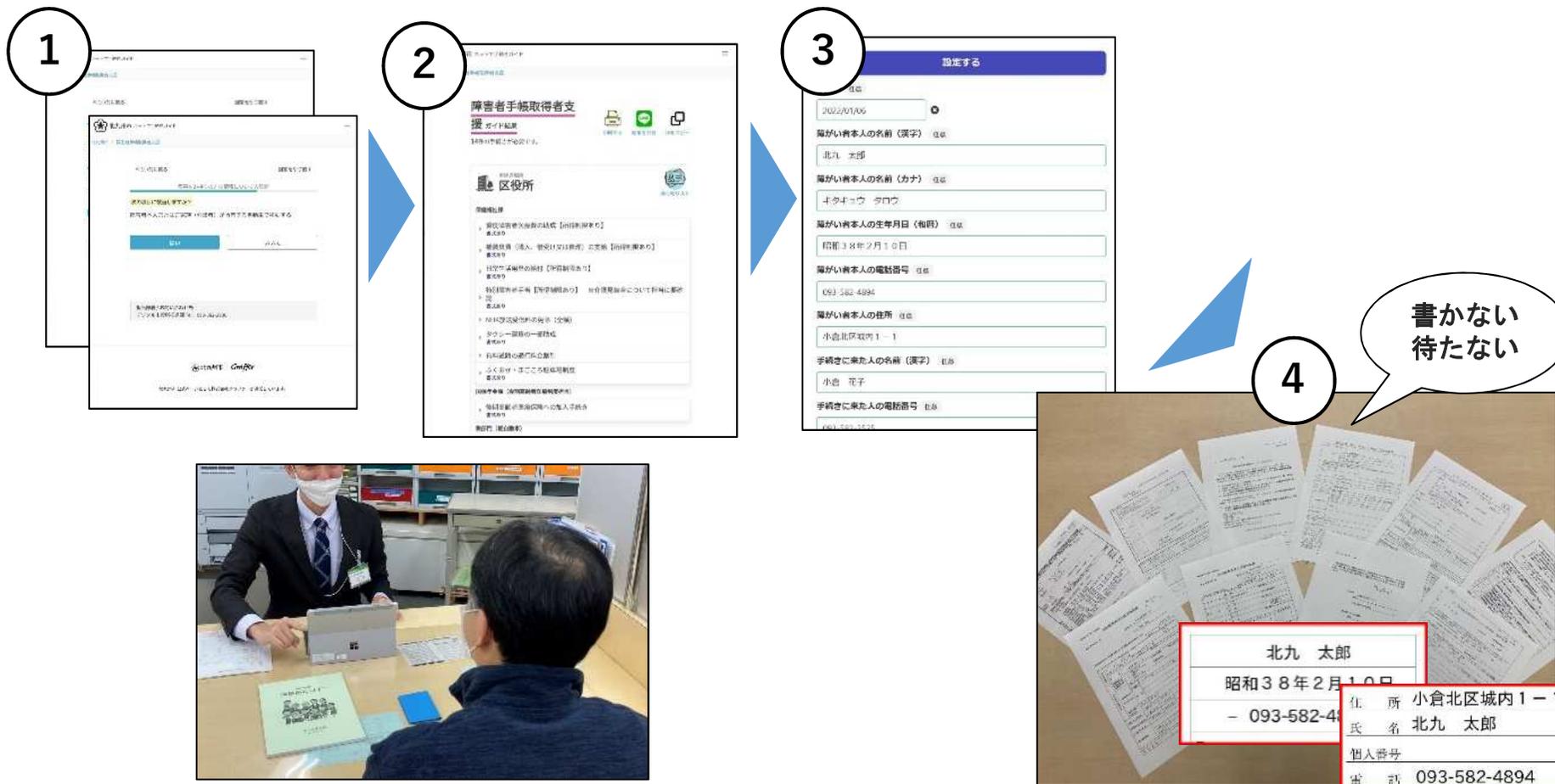
手続きの押印見直し・オンライン化



“書かない”“待たない”サービスの実証 手続きガイド+申請書作成支援 (R3.9~)

障害者手帳の新規交付時に必要な幅広い福祉サービスの案内を、簡単な質問に答えてもらう (①) だけで分かりやすく案内 (②)

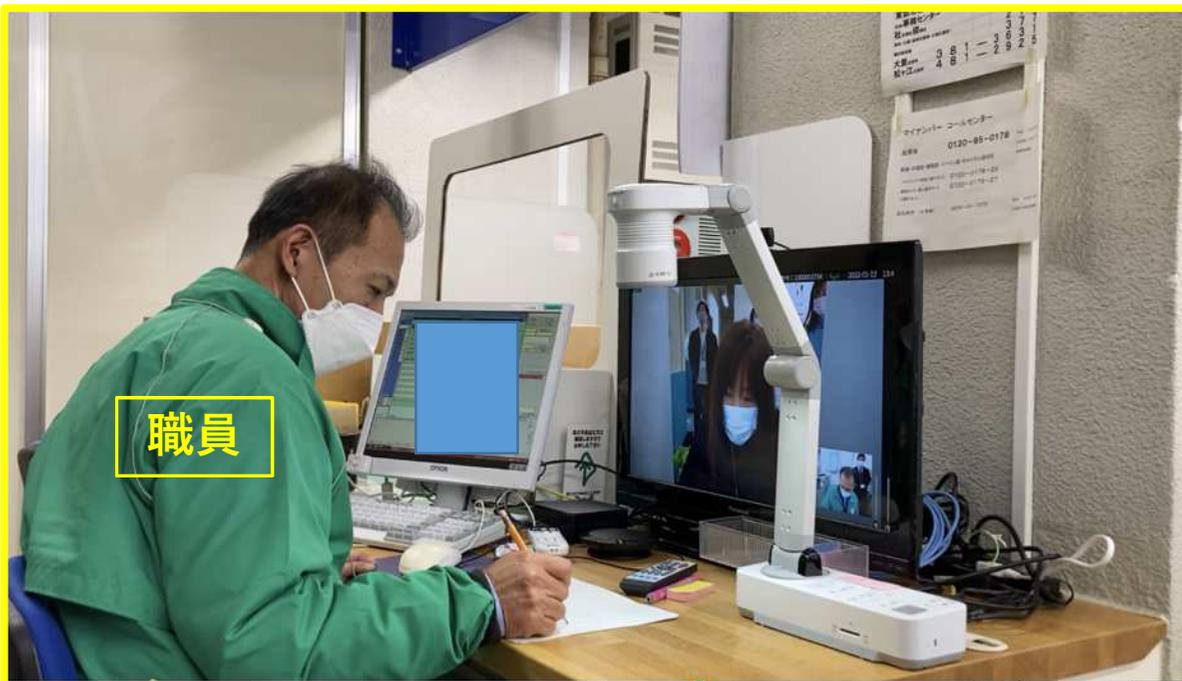
氏名や住所など共通項目を入力 (③) すれば、複数の申請書に印字して渡せる (④) ので、繰り返し記入不要



“行かなくていい”サービスの実証 リモート窓口相談 (R4.1~)

区役所と出張所をTV会議システムで繋ぎ、通常は区役所でしか受けていない相談内容を出張所で受け付け

区役所側



出張所側



マイナンバーカードを活用した図書館アプリの実証

実証内容

マイナンバーカードの電子証明書を活用した図書館アプリを利用する実証を実施し、マイナンバーカードの普及及び図書館利用者のサービス向上につなげていく。

- マイナンバーカードの電子証明書を活用した図書館アプリの利用者登録
- 図書館アプリの利用者カードとしての利用
- 図書館アプリを利用した予約 等

利用までの流れ



※画面は開発中のため変更となる可能性があります。

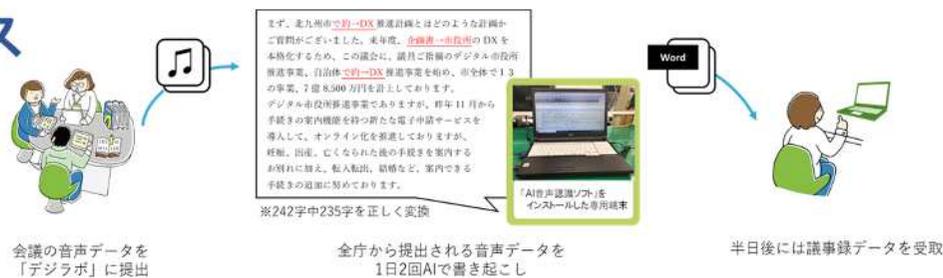
「デジラボ」とは

8か月で5, 115時間の業務削減 (R3.5~12)

- AI・RPA等のデジタル技術を活用した事務作業を各部署から集約して検証・実行
- AI・RPA等を活用した業務に関する質問・相談を随時受け付け
- 各業務所管課への伴走支援を実施

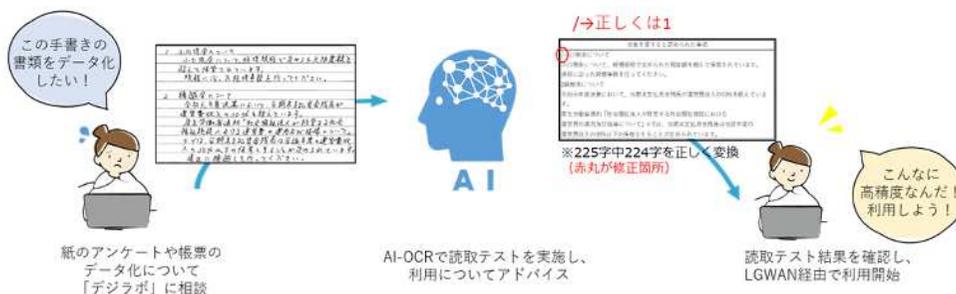
1 AIによる議事録作成支援サービス

- ・ 全庁の会議等の音声データをテキストデータに変換
- ・ 8か月で約1,000件稼働し、**約4,000時間の業務削減**



2 AI-OCRサービス

- ・ 各部署が紙帳票をAI-OCRを利用してデータ化
- ・ 8か月で**約715時間の業務削減**



3 RPA集約処理サービス

- ・ 各局の大量・反復処理業務をRPAで自動化
- ・ 8か月で**約400時間の業務削減**



新型コロナウイルス陽性者等管理アプリ（保健福祉局 感染症医療対策課）

概要

従来紙でばらばらに管理していた新型コロナウイルス陽性者や健康観察等の各種情報をデジタル化し一元管理することで、業務効率化とペーパーレス化を図る。

また、市民の負担軽減を図るため、一部の情報は、長時間の聞き取り調査に代えて、市民が直接Webフォームに入力する方法（電子申請）を試行している。R4.1本運用開始

導入前



陽性者の調査内容や日々の健康観察を手書きし、ファイリング



誰かが陽性者の対応のためにファイルを持ち出すと、所在が分からなくなり、他の業務が停滞する



どこ?!

紙ファイルによる管理は件数が増えると整理や検索に時間がかかる

導入後



陽性者の調査内容や日々の健康観察を聞き取り、kintoneに入力

データベース化しているため、複数の人が同時に検索や参照可能となる

従来と同じ外見でExcelに出力できるため、視認性を損なわずにペーパーレスにも貢献でき、他課との共有も容易になる

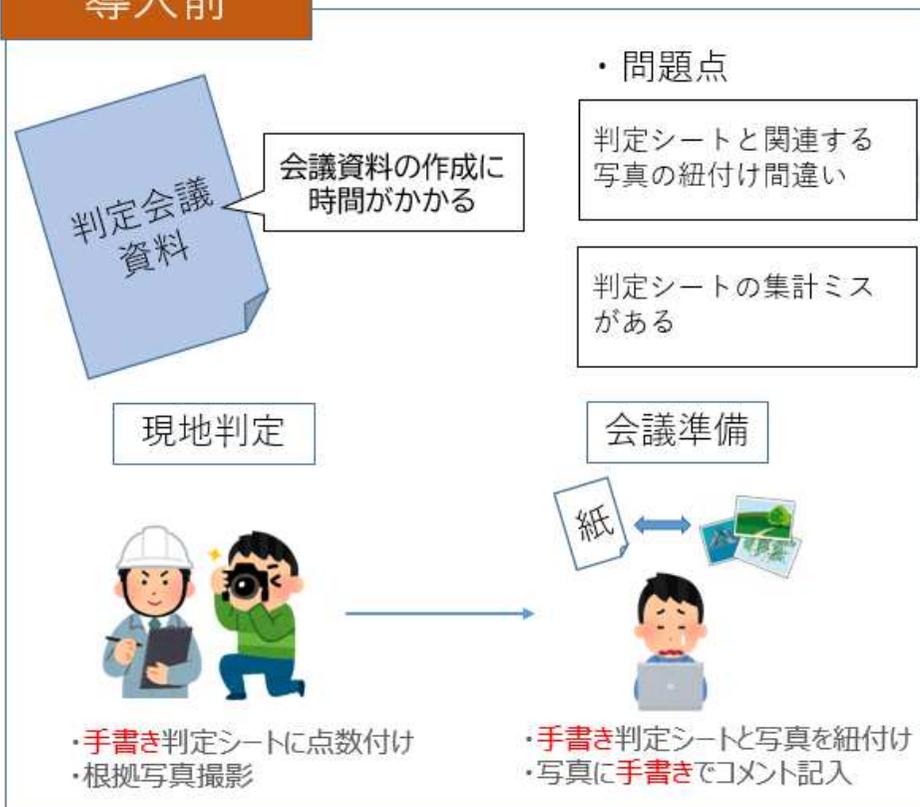


老朽空き家除却補助現地判定アプリ（建築都市局 監察指導課）

概要

老朽空き家除却促進補助金の事前相談について、補助対象判定業務の効率化を行っている。モバイル端末を活用し、現地にて対象建築物の情報入力や状況写真の編集などを行うことで自動的に資料を作成できるため、現地調査後に行っていた判定会議のための資料準備等が不要になる。年間157時間の作業時間削減見込み。R3.12本運用開始

導入前



導入後

老朽空き家除却補助現地判定

受付区 No. 居住を誘導する区域

北 60 内

◆判定結果◆ 危険度 不良度 補助種

75 110 特別

■空き家所在地

行政区 町名

小倉北区 下町二丁目 ←町名で検索してください。検索例：城内

外区符号 住居番号 ※半角英数字

3番 29号

③外壁等が脱落、飛散等する恐れがあるか 点数

25点

▽判定内容

低)下物の露出しているもの 中)著しく下物の露出しているもの、または穴を生じているもの 高)著しい損傷が見られるもの

下物材が破損し穴が空いている

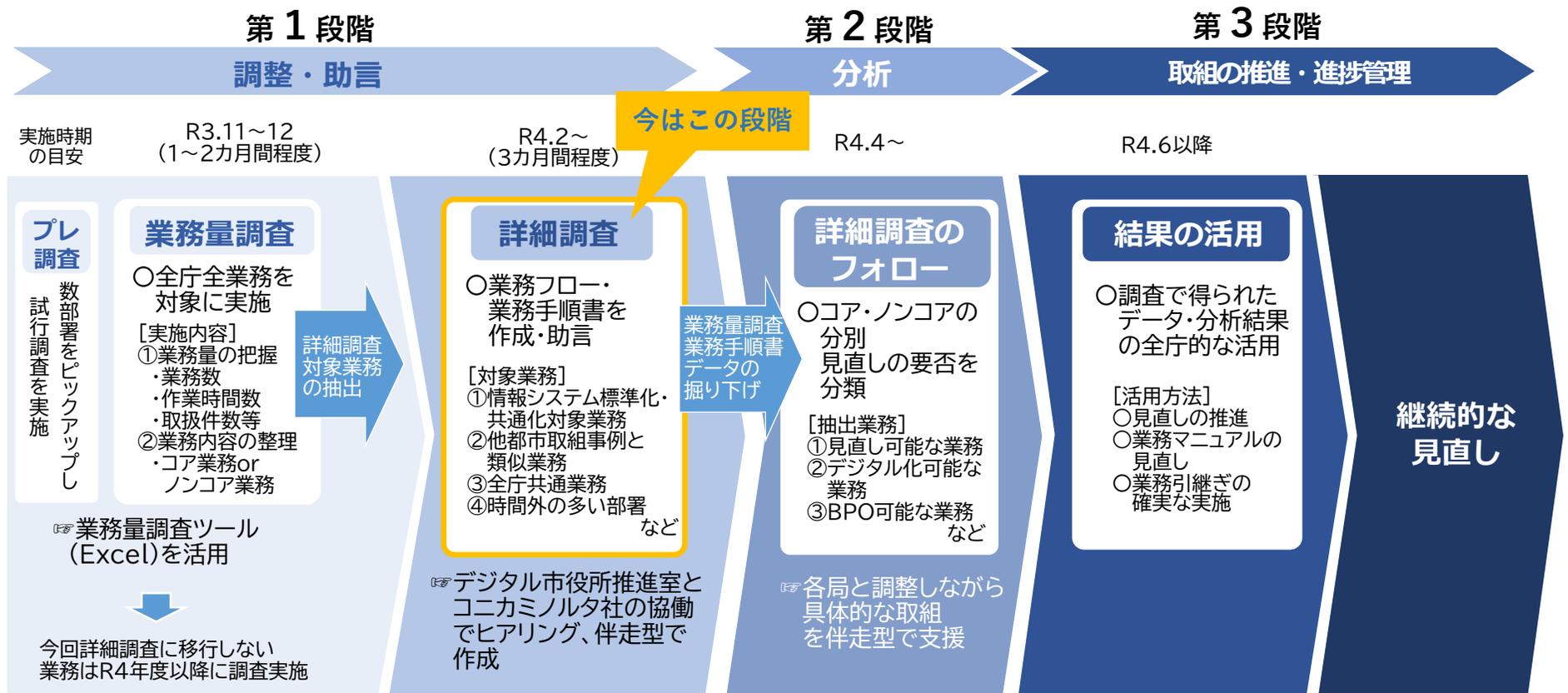
手書き コメント 外壁の写真

直接写真へコメント等記入

会議資料としてそのまま活用

BPRの取組の流れ

市役所のDXを本格的に推進するにあたり、前提となるBPR(業務改革)に令和3年度下期で徹底的・集中的に取組む（コニカミノルタ社と連携協定を締結し、協働で実施）



※実施期間・時期については、調査の進捗状況に応じ、柔軟に対応

モバイル端末やペーパーレス会議システムなどを導入し、職員の働き方改革のための環境を整備

モバイル端末の本格導入 (R3.9)

職員のテレワークや外勤先での活用など、柔軟で多様な働き方の実現のため、**職場と同様の環境で業務ができる「モバイル端末」を全庁的に導入** (1,500台)

【活用場面】

- テレワーク (在宅・サテライトオフィス)
- モバイルワーク (外勤先・出張先での活用)
- 災害対応等 (避難所等での活用) など

【テレワーク推進のための取組】 (国のテレワーク月間にあわせ、R3.11~12に集中的に実施)

- ①管理職テレワーク研修 : 全管理職を対象としたテレワークの実践
- ②サテライトオフィス試行設置 : 市内2カ所にサテライトオフィスを設置
- ③モバイル端末活用提案募集 : 全庁から効果的な活用提案を募集
- ④職員意識調査 : テレワーク等に関するニーズの把握



ペーパーレス会議・Web会議の推進

○ペーパーレス会議システムを導入し、各局に配備しているipadを活用して **幹部会議や課長会議などをペーパーレスで実施中**

○共有の会議室にWeb会議システムを設置、**Web会議を推進** (ipadも活用)

○職場内の会議、資料説明などは、**モバイル端末とモニターを活用して、完全ペーパーレスでの実施**を推進

